

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立芙蓉中学校

4月から5月にかけて、文部科学省による学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童・生徒の学力や学習の状況を把握・分析し、教育の改善を図るとともに、児童・生徒一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校生徒の学力と学習状況の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

調査期日

令和8年4月23日（木）

(注)中学校英語及び質問調査については、オンライン方式（CBT方式）のため、調査日を分散して実施

調査の対象学年

中学校第3学年

調査の内容

(1) 教科に関する調査

国語、数学、英語（英語は一人一台端末を用いたCBT方式）

- ① 身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり、常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。
- ② 知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。
調査問題では、上記①と②を一体的に問うている。

(2) 質問調査（1人1台端末を用いたCBT方式）

児童生徒に対する質問	学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
学校に対する質問	指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

教科に関する調査結果及び考察について

- ・ 全国学力・学習状況調査は、小学6年生及び中学3年生を対象に、国語、算数・数学、英語について実施されています。
- ・ また、調査問題は、各教科の一部の内容について出題されているものであり、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり、「学校教育活動の一側面」です。
したがって、調査結果を見る際には、この点をご理解いただいた上で、ご覧ください。
- ・ 中学校英語のみ「IRTスコア」による公表です。

【参考】

- IRTとは、項目反応理論（Item Response Theory）と呼ばれる統計理論のことで、生徒の正答・誤答が、問題の特性（難易度、測定精度）によるのか、生徒の学力によるのかを区別して分析し、生徒の学力スコアを推定することができる。
- IRTでは、これまでのように、同一の問題セットを生徒が一斉に解答し、その正答数によって正答率を算出する調査とは異なり、複数の問題セットが用意され、個々の生徒が異なる問題セットを解答しても、生徒の学力スコアを推定することができる。
- 各学校や自治体に提供されるIRTスコアは、500を基準にしたスコアで示される。

調査結果及び考察

質問調査

佐賀市学校教育ビジョンに関わる設問より（キーワード：自律・尊重・創造・主体性・当事者意識）

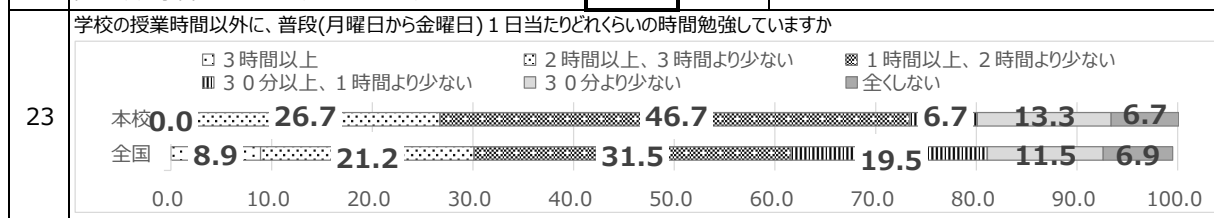
《質問領域：主体的・対話的で深い学び》

（注）数値は「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」等、肯定的な回答の割合（％）

質問番号	質問事項	本校（％）	全国（％）
39	前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいた	80.0	78.8
42	学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができている	80.0	87.0
46	授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいる	86.6	92.4

《質問領域：主体的な学習の調整、学習習慣》

22	分からないことやよく知りたいたことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか	80.0	78.2
43	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	93.3	79.0



本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎ 学習時間の長さだけでなく、自ら課題に向き合い、学び方を調整しながら学習に取り組もうとする姿が見られます。
- ◎ 課題の解決に向けて主体的に学習に取り組む姿勢が高い傾向が見られます。
- 対話を通し、考えを深めたり、新たな考えに気付くことができることに気付く必要があります。

《質問領域：自己肯定感、幸福感 等》

8	自分には、よいところがあると思う	100.0	84.0
10	将来の夢や目標を持っている	53.3	67.6
15	学校に行くのは楽しいと思う	93.3	85.4
21	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	100.0	91.0

《質問領域：向社会性》

14	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	100.0	95.9
33	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思う	86.7	72.3

本校の調査結果 ※◎（強み）、●（課題）

- ◎ ほとんどの生徒が学校生活を前向きに捉え、自分のよさを感じながら生活している様子がうかがえます。
- ◎ 人や地域社会の役に立ちたいという思いが高く、他者や社会への関心が育っています。
- 将来の夢や目標と、現在の学びや生活とのつながりを実感できるような支援が必要です。

調査結果を受けて

【学校では】

○主体性を伸ばすための3つの力「自律」「尊重（自由の相互承認）」「創造」を育んでいきます。「学校に行くのは楽しい」と子どもたちが思えるように、主体的、対話的で深い学びの視点で、日々授業改善を行って授業づくりをしています。

○自分で考え、自分で決めて、自分で動き出す力を育むため、課題解決のために自分に合う学び方やペースを選択できるように取り組みます。

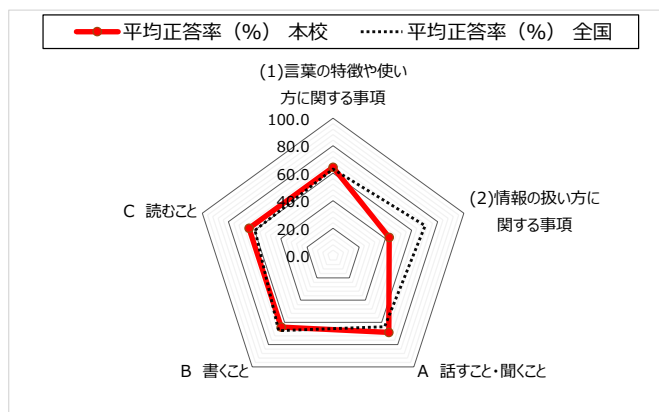
【ご家庭では】

○「尊重」の力を育むために、お子さんが困っているときには、大人の伴走支援（①どうしたの？②あなたは どうしたい？③私に何かできることはある？）で関わるのが大切です。

○「芙蓉中家庭学習の手引き」をご覧ください、学習時間のめやすや、学習の進め方を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容		平均正答率 (%)	
		本校	全国
知識及び技能	(1)言葉の特徴や使いに関する事項	64.3	63.0
	(2)情報の扱いに関する事項	42.9	70.4
思考力、判断力、表現力等	A 話すこと・聞くこと	69.0	63.9
	B 書くこと	64.3	67.4
	C 読むこと	64.3	59.7



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	67.5	72.7
短答式	66.7	55.8
記述式	50.0	45.5

結果 ※◎ (強み)、●課題

◎ 互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることや、目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することが身に付いています。

● 「情報」と「情報との関係」の様々な表し方を理解し使うことについて課題がみられました。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 四	互いの立場や考えを尊重しながら話し合い、結論を導くために考えをまとめることができるかどうかをみる	64.3	52.7
4 三	目的に応じて必要な情報に着目して要約し、内容を解釈することができるかどうかをみる	78.6	68.7

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2 三	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる	42.9	70.4
3 三	段落相互の関係を明確にし、文章の展開を工夫することができるかどうかをみる	50.0	65.0

調査結果を受けて

【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業の在り方を工夫すること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、学びをふかめることができるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながら書く機会を増やしたり、インタビューや課題解決のための話し合いをしたりするなど、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。

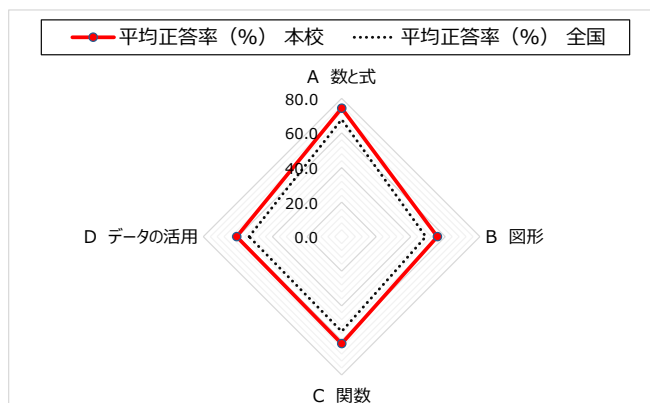
【ご家庭では】

- お子さんの話を最後まで聞き、「どうしてそう思ったの？」と考えを引き出す対話を大切にしてください。

- ニュースや出来事について、理由を含めて話す機会をつくってください。

《学習指導要領の内容別 平均正答率》

学習指導要領の内容	平均正答率 (%)		#
	本校	全国	
A 数と式	74.3	67.8	#
B 図形	55.4	48.7	#
C 関数	61.9	54.8	#
D データの活用	60.7	53.5	#



《問題形式別 平均正答率》

問題形式	平均正答率 (%)	
	本校	全国
選択式	71.4	59.3
短答式	64.3	64.2
記述式	57.1	39.1

結果 ※◎（強み）、●課題

◎すべての領域、問題形式で全国平均を上回っています。特に関数領域、データの活用の領域では、7.1ポイント以上全国平均を上回っています。また記述式の問題について、全国平均を18ポイント以上上回る結果となっており、本校生徒の強みと言えます。同時に無回答率が28.6ポイントと、他の設問と比較して高い傾向にありました。

●短答式の基本的な知識を問う設問に課題がみられました。

《正答率の高い問題》【強み】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
7 (2)	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかどうかをみる	64.3	33.9
9 (3)	データの傾向を的確に捉え、判断の理由を度数分布多角形の特徴を基に説明することができるかどうかをみる	57.1	31.9

《正答率の低い問題》【課題】

問題番号	出題の趣旨	平均正答率 (%)	
		本校	全国
2	同類項の意味を理解しているかどうかをみる	64.3	70.5
4	反比例の関係を表す表の特徴を捉えて、xの値に対応するyの値を求めることができるかどうかをみる	42.9	55.3

調査結果を受けて

【学校では】

○1人1台端末などを活用させながら、基本的な知識、用語理解の定着を図るようにします。

【ご家庭では】

○分からないことがあったときは、すぐに答えを教えるのではなく、一緒に考えたり調べたりする時間を大切にしてください。

中学校英語の結果は、正答数だけでなく問題の難易度も考慮した「IRTスコア」で示されています。

《平均IRTスコア》

本校	515
全国	499

《技能別平均正答数》

	聞くこと	読むこと・書くこと	話すこと
本校	1.1 / 2	3.3 / 5	0.9 / 2
全国	1.2 / 2	2.5 / 5	0.7 / 2

※「読むこと」と「書くこと」は、国から提供される結果では一つの区分として示されています。

《強みが見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
6	読むこと	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、読むことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる
15	話すこと [やり取り]	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、話すことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる

《課題が見られた問題》

問題 番号	技能	出題の趣旨
3	聞くこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ることができるかどうかをみる
8	読むこと	日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を読み取ることができるかどうかをみる

結果 ※◎（強み）、●課題

◎ 音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識を、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことといった、それぞれの技能を実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能が身に付いています。

● 日常的な話題について、自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取ったり、読み取ったりすることに課題がみられました。

調査結果を受けて

【学校では】

- 生徒が自ら考え、英語で伝え合う言語活動を充実させるとともに、目的や相手を意識して表現する場面を積極的に取り入れていきます。
- 聞く・読む・話す・書く活動を関連付けながら、一人一人が自分の考えをもち、コミュニケーションを通して学びを深めることで、英語をツールとして身に付けていけるような授業づくりを進めます。

【ご家庭では】

- 英語（外国語）で学んだことについて話題にしたり、伝えようとする姿を認めたり励ましたりすることで、英語に親しむ機会を大切にしてください。
- 英語（外国語）を通して、知識だけでなく、コミュニケーションの楽しさが経験できるよう、お子さんの考えや挑戦を温かく見守ってください。